ロシアの部　１３６−１３７

１３６
国家歴史博物館
Staatliches Historisches Museum
Krasnaja Pl., 1/2
GUS-103012 Moskva

開館：月曜〜木曜、10 時〜18 時　火曜休館
　　金曜、土曜、10 時〜21 時
　　日曜、10 時〜18 時
調査研究：予約が必要
電話： +7（495）692-37-31
E-Mail：visitor@shm.ru
Website：https://shm.ru/
目録：あるが閲覧不可
カタログ：ある。

説明：このコレクションの重要な作品の中には、トビアス・フォルックマーThobias Volckmer がブラウンシュヴァイク Braunschweig で 1592 年頃に製作した日時計、ジル・レーヌ Gills L'Ainé がパリ 1740 年頃製作した装飾置時計、ガストン・ジョリー Gastn Jolly がパリで 1780 年頃製作した振子置時計 Pendüle などがある。モスクワ工科博物館（Novaya Ploschad）にも時計のコレクションがある。そこにはイワン・クリビン Ivan Klibin（1735-1818）のロシア製時計、ブロンニコフ Bronnikov の木製壁掛時計や懐中時計、サンクトペテルブルク St. Perersburg 近郊のプルコバ Pulkova 天文台のクロノメーターのコレクションなどがある。

REF：
壁掛け時計 Wanduhren　　＋＋
ホールクロック Standuhren＋＋
装飾置時計 Konsoluhren　　＋
懐中時計 Taschenuhren　　＋＋＋
マリンクロノメーター Marinechronometeter　　＋＋
精密振り子時計 Prsezisionpendeluhren　＋
腕時計 Armbanduhren　　＋＋
電気式時計 Electrische Uhren　　−
塔時計 Turmuhren　＋
科学機器 wiss, Instrumenten　　＋＋＋
日時計 Sonnenuhren　　＋＋＋

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

１３７
国立エルミタージュ
Staatliche Ermitage

Palace Emb., 30-38 (Dvortsovaya Naberezhnaya 34)
GUS-191065 St. Petersburg

開館：火曜～金曜、日曜、11 時～18 時
　　土曜、11 時～20 時　月曜休館
調査研究：予約が必要
電話： +7 (812) 571-34-65, +7 (812) 571-84-46
E-Mail：excursof@hermitage.ru, chancery@hermitage.ru
Website：https://www.hermitagemuseum.org/wps/portal/hermitage/!
目録：ある、閲覧不可
カタログ：ある。

説明：国立エルミタージュ Ermitage には、広範な時計のコレクションがある。見学者は、16 世紀のアウクスブルク Augsburg 製の塔型小時計の全貌を、時計が内蔵されたイエス磔刑図（訳注：指し示している物が不明）、いくつかのオートマタならびにザクセン Sachsen 製の豪華な振り子式置時計 Prunkpendule などを見ることができる。懐中時計の部門では、16 世紀にハンブルクのニコラウス・メルテン Nikolaus Merten 作のペンダント時計、さらには >>Cameel<< の署名入りのストラスブール Strasbourg 製六角形の水晶時計、17 世紀に作られた >>S. Schlör Rosenburg<< の署名入りの初期の四角型エナメル時計などが展示されている。いくつかの英国のスピンドル式時計（訳注：バージ Verge 脱進機付きの時計の意）は、ほとんどがロンドン製である。後の時代には、フランスとジュネーブのエナメル装飾時計が加わり、携帯用時計 Formuhr や幻想的な装飾時計 Phantasieuhren から、時計が葉の間に見られるチューリップまで追加された。また、17 世紀から 19 世紀のフランスの時計も多数所蔵している。153～170 号室では、以前は技芸展示室にあった楽器、天文学や航海用の機器を展示している。160 号室には、クビリン Kubilin が女帝エカテリーナ 2 世のために 1764 年から 1767 年にかけて製作した、オートマタの付いた >>ミニチュアの音楽時計<< がある。さらに、ジェームズ・コックス James Cox 作の孔雀時計も見ることができるが、残念ながらもう機能していない。
>>Gemroom（宝石の間）<<では、エリザベータ皇后と女帝エカテリーナ 2 世が所有していた時計が展示されている。これらは、主として宝石仕上げのエナメル時計である。ほとんどの時計は、イギリス製、フランス製、ドイツ製である。
　もう一つの重要な時計コレクションは、サンクトペテルブルク St. Petersburg の「国家歴史博物館 State History Museum（訳注：なぜか原著でも英語で表記している）」にある。400 個以上の時計が収蔵されており、主として小型時計の進化の歴史を扱っている。17 世紀から 19 世紀にかけての作品は、主にドイツ、イギリス、フランスから来たものである。

△付図の説明：置き時計、18 世紀、時計のムーブメントで回転する地球、鉄の針が時刻を示す、針は人形から下に向かって指さす、高さ 19cm、　　Staatliche Ermitage St. Petersburg

訳追記：コレクションの内容は示されていない。

ロシアの部　終わり